

## キンダースオンラインアンケート

8/18～31

第1回小児科学会石川地方会  
平成21年9月13日(日)

月一会では新型インフルエンザの流行に備え、季節型インフルエンザと診療体制、診療内容の変化があるのか8月16日～31日にメール上でオンラインアンケートを行った。

☆インフルエンザ診療に関するアンケート kinders.ML

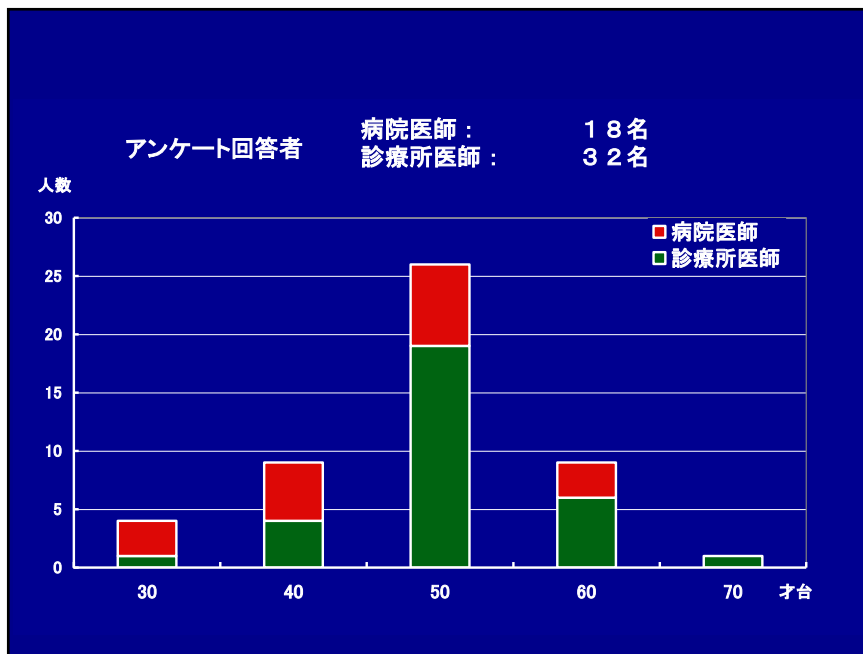
\*\*\* 注意：平角カタカナは絶対に使用しないでください。 \*\*\*

質問	先生のメールアドレスは？（平角英数で）	
1	先生の年齢は？	20代 30代 40代 50代 60代 70代
2	先生の勤務形態は？	診療所 病院（待合室などで他科の患者の混在あり）
3	外来診療室の数は？	1部屋 複数
4	隔離待合室はありますか？	あり なし
<b>5 今までの季節性インフルエンザ流行期では、</b>		
5-1	待合室にて発熱患者の隔離状況は？	隔離する 隔離せず
5-2	隔離する場合は？	当初から隔離 診察後（検査中）に隔離 診断決定後に隔離
5-3	隔離する場合の場所は？（複数選択可）	隔離待合室 空いた部屋 自家用車（携帯などで呼び出し） その他
5-4	診察時間をずらすなどの時間的隔離を、	行っている 行っていない
5-5	隔離しない場合は？（複数選択可）	特別の対応なし マスクを使用させる 問診を控えて座る その他の対応
5-6	院内隔離についての自由なご意見をお書きください	
<b>6 新型インフルエンザが出現した現在および今後は、</b>		
6-1	待合室にて発熱患者の隔離状況は？	隔離する 隔離せず
6-2	隔離する場合は？	当初から隔離 診察後（検査中）に隔離 診断決定後に隔離
6-3	隔離する場合の場所は？（複数選択可）	隔離待合室 空いた部屋 自家用車（携帯などで呼び出し） その他
6-4	診察時間をずらすなどの時間的隔離を、	行う 行わない
6-5	隔離しない場合は？（複数選択可）	特別の対応なし マスクを使用させる 問診を控えて座る その他の対応
6-6	院内隔離についての自由なご意見をお書きください	
<b>7 インフルエンザ抗原迅速検査のタイミングについて</b>		
7-1	従来の季節性インフルエンザと現在の新型インフルエンザでは、	同じタイミングで行う 違うタイミングで行う

7.2	同じタイミングの場合、	発症からの時間に関係なく検査 発熱後約6時間経ってから検査 発熱後約9時間経ってから検査 発熱後約12時間経ってから検査 発熱後約24時間経ってから検査 その他
7.3	違うタイミングの場合、	具体的に
8 今までの季節性インフルエンザに対する治療方針は？（年齢別にもっともよく行われた治療を選んでください）		
		タミフル    リレンザ    アマンタジン    薬方    薬方と抗インフルエンザ薬の併用    対症療法
	0才	
	1才～5才	
	6才～9才	
	10才～19才	
	20才以上	
9 新型が現在あるいは主となる今後のインフルエンザに対する治療方針の予定は？		
9-1	8の季節性インフルエンザに対する方針と	同じ    異なる    わからない
9-2 9-1で異なるを選んだ場合の治療方針は？（年齢別にもっともよく行う予定の治療を選んでください）		
		タミフル    リレンザ    アマンタジン    薬方    薬方と抗インフルエンザ薬の併用    対症療法
	0才	
	1才～5才	
	6才～9才	
	10才～19才	
	20才以上	

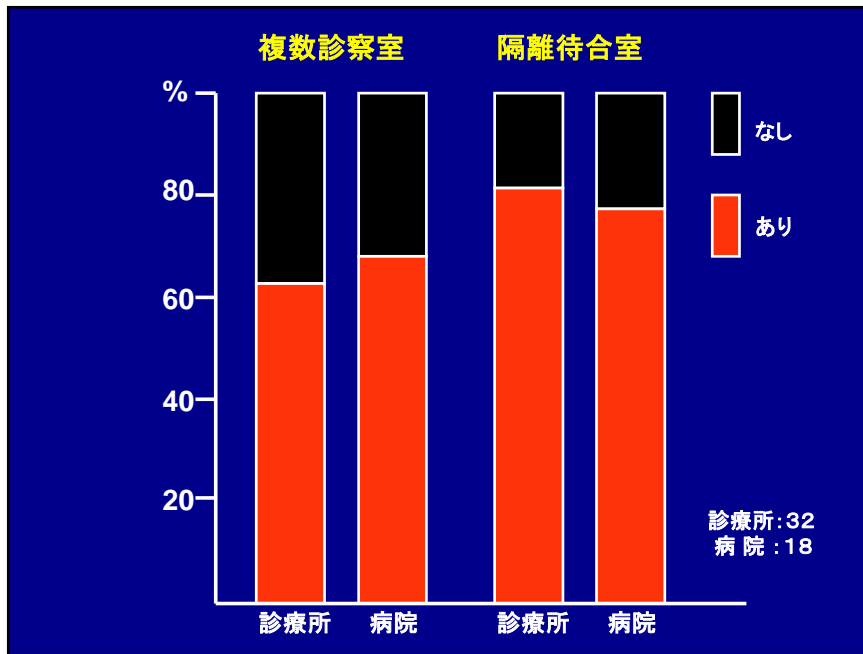
ありがとうございました。以上で質問は終了です。

<入力に間違いがないかお確かめのうえ下のボタンを押してください。>

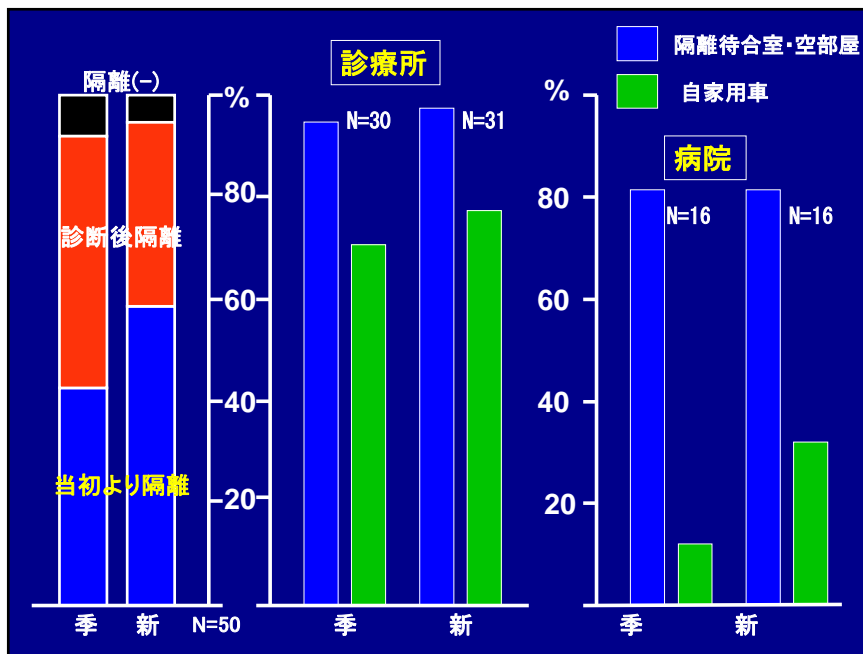


①現在150人余のメンバー中50人（診療所32名、病院18名）から回答があり、その回答を集計した。

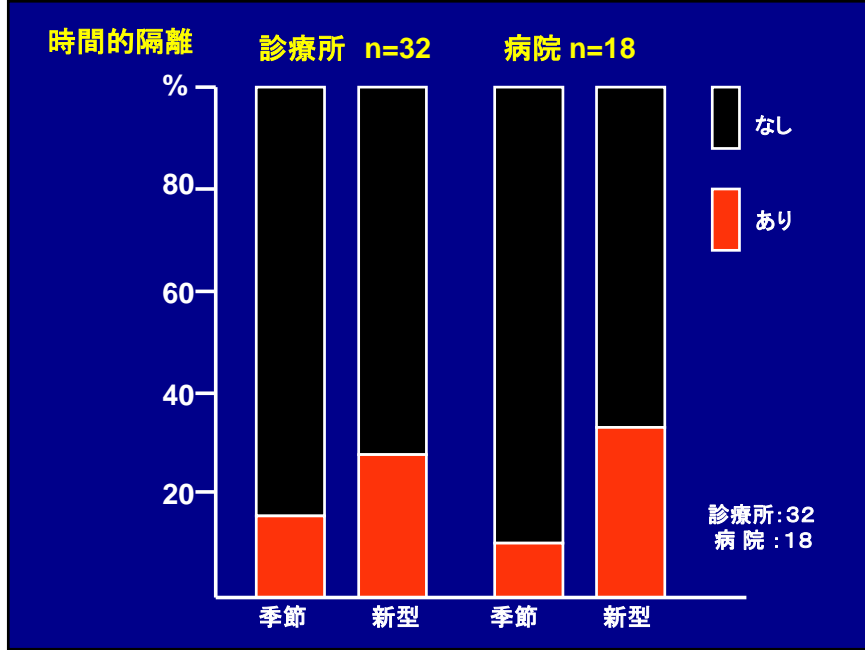
アンケート回答者は診療所、病院の医師共に最頻値は50歳台であったが、診療所の医師は病院の医師より少し年齢は高めであった。



②診察形態として複数診察室があるとか隔離待合室があるとかは診療所・病院ではそんなに差がなかった。

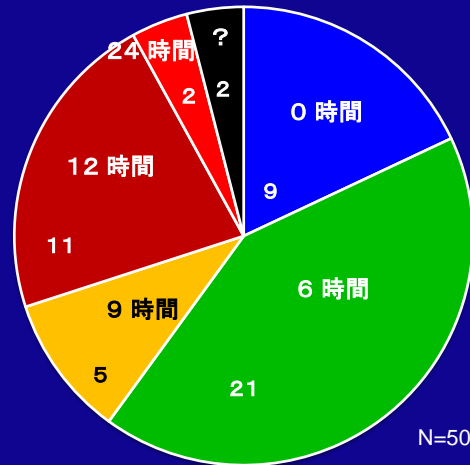


③季節性・新型共に場所的に隔離はされていたが来院当初から隔離されているのはその半分であり、残りは診断後に隔離されていた。新型が出始めて当初からの隔離の割合が増加した。なお、隔離されていないといっても、マスクや患者同士の間隔を取る等の工夫はなされていた。また、隔離場所は隔離待合室や空き室が殆ど利用されていたが診療所は3/4が自家用車を利用していった。病院は自家用車の利用が従来は少なかったが新型が出てからは30%に自家用車利用が増加した。



④発熱患者の時間制限や予約制などでの時間的隔離は診療所では15%から31%、病院では11%から33%と増加し、工夫している様が見られた。

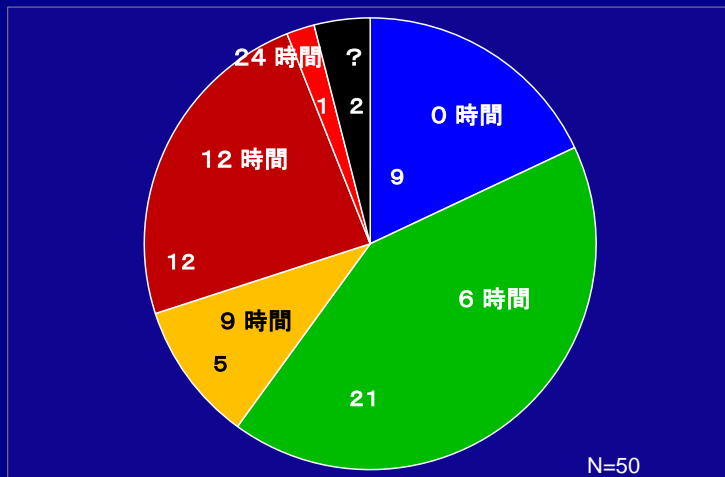
## 発熱後検査のタイミング(季節型)

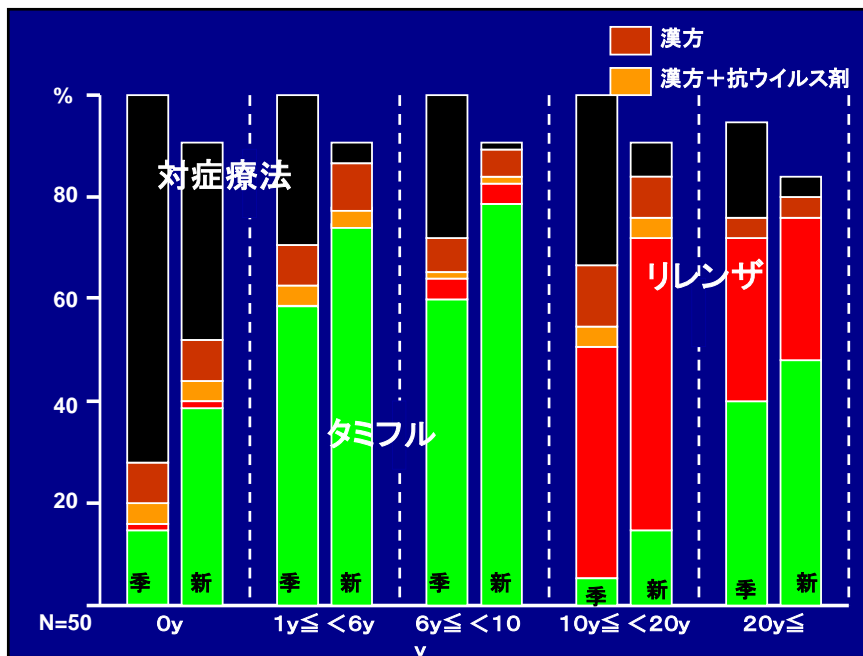


⑤⑥インフルエンザ検査の発熱後経過時間は4割6時間、3割が9～12時間であり、発熱後直ぐにでも検査が2割、24時間後というのもあったが、季節型、新型共にそのタイミングはあまり変動がなかった。



## 発熱後検査のタイミング(新型)





⑦治療方針は季節型から新型は0歳児を含め各年齢ともタミフルの使用率が増加していた。10歳以上はリレンザが主である。漢方は漢方を新型になっても固辞している傾向があった。新型は0歳児を除いて対症療法は激減した。なお季節型の薬剤使用割合はキンダースのIF1u08-09の値と同じようであった。アンケート最中、後にも様々な通達・報告で抗ウイルス剤を使え、使うなど両方の情報があり、アンケート回答後診療方針の変更が十分予想される。

最後にアンケートに御協力頂いた会員、アンケートをプログラミングして頂いた中村英夫先生、Excelにデータを入力して頂いた太田邦雄先生に感謝いたします。